

多賀町史跡大岡高塚古墳周辺整備計画 報 告 書

令和5年3月

多賀町

目 次

1. 業務概要	1
1.1 業務目的	1
1.2 業務場所（範囲）	1
1.3 履行期間	1
2. 多賀町の概要	2
2.1 多賀町の変遷	2
2.2 地理的環境	2
2.3 産業	3
2.4 歴史遺産	5
2.5 多賀町の「石」の文化	6
2.6 多賀町の「食」の文化	7
3. 大岡高塚古墳周辺の概要	8
4.1 地形・自然等	8
4.2 交通	9
4.3 施設	10
4. 上位関連計画の整理	13
4.1 第6次多賀町総合計画（計画期間：R3～R12）	14
4.2 都市計画マスタープラン・国土利用計画	15
4.3 多賀町歴史文化基本構想（H30.3 策定）	16
4.4 多賀町文化財保存活用地域計画（R3.3 策定）	17
4.5 多賀町生涯学習推進計画	18
4.6 第2期多賀町健康増進計画・第2期多賀町食育推進計画	19
5. 意見交換会及び委員会の意見	20
5.1 多賀町史跡高塚古墳周辺整備計画意見交換会	20
5.2 多賀町指定文化財大岡高塚古墳保存整備委員会	21
6. 本対象地区における課題の整理	23
7. 整備計画	24
7.1 ゾーン構成と動線計画	24
7.2 基本的な考え方の整理（基本方針）	27
7.3 整備方針	28
8. 概算工事費及び年次計画	33
8.1 概算工事費	33
8.2 年次計画	36
9. 実現方策の検討	37
9.1 まちづくりのしかけの実施に向けて	37
9.2 具体的な取組の例示	39
9.3 情報発信	40
9.4 組織体制の構築	40

Ⅰ．業務概要

1.1 業務目的

多賀町史跡大岡高塚古墳は直径 25m、高さ 4mの円形状で、その形状から円墳とされ、周辺には 7 基の古墳が点在する古墳群に位置している。墳丘の測量や石室内部の調査は既
に実施されており、滋賀県内でも最大級の円墳となっている。

この古墳群の整備計画は、多賀町総合計画や多賀町歴史文化基本構想及び多賀町文化財
保存活用地域計画に「多賀町のまちづくり事業の一環」として位置づけられていることか
ら、古墳の整備だけでなく周辺に所在する「あけぼのパーク多賀（博物館・図書館）」や「多
賀町中央公民館（多賀結いの森）」と連携が図れる整備計画の立案が望まれている。

このため、歴史文化基本構想と文化財保存活用地域計画の基本方針（関連文化財群のテ
ーマ）を踏襲し、史跡公園として古墳群の整備を位置づける他、歴史文化基本構想で設定
した 6 つのテーマのひとつである「暮らしを支えた石の文化」をテーマとし、隣接する石
切山や大岡集落を含めた整備の検討を行う。

なお、あけぼのパーク多賀（博物館・図書館）の立地や、多賀町中央公民館（多賀結いの
森）に隣接する公園の開園が予定されている他、地域の高齢化に対する課題解消や健康対
策等の生涯学習、自然環境学習、石材産地としての歴史学習の拠点として、地域資源を活
かした総合的な生涯学習のフィールドとしての活用も視野に入れた整備計画とする。

1.2 業務場所（範囲）

本業務の場所は多賀町 大岡、四手、久徳 他 地先となっていることから、多賀地域※
（四手を含む）を業務範囲と捉える。

※）都市計画マスタープラン・国土利用計画による地域分類

1.3 履行期間

令和 4 年 1 0 月 8 日から令和 5 年 3 月 2 5 日

2. 多賀町の概要

2.1 多賀町の変遷

江戸時代は彦根藩に属しており、明治 4(1871)年に廃藩置県が施行された後、明治 12(1879)年の郡区町村編成法の行政区画として犬上郡が発足し、現在の多賀町、甲良町の全域、豊郷町や彦根市の大部分が犬上郡の郡域に属していた。その後の明治 22(1889)年の町村制の施行、昭和 16(1941)年の昭和の合併を経て多賀町が発足した。

2.2 地理的環境

1) 位 置

多賀町は滋賀県東部の「湖東地域」に位置し、北は米原市、西は彦根市・甲良町、南は愛荘・東近江市、東は岐阜県大垣市・三重県いなべ市に接している。周辺には標高 1,000m前後の山々（霊仙山・鍋尻山・高室山）が連なる鈴鹿山脈の北半に位置し、町域の大半は山地で森林面積は 85.5%を占めている。

2) 河 川

鈴鹿山脈を水源とする一級河川の犬上川と芹川が流れている。

芹川は霊仙山を源流として八重練地区周辺で平野に出て月之木で四手川と合流し、彦根市街地を經由して琵琶湖に注いでいる。上流部ではV字谷が顕著に見られる。

犬上川は川相地区で北谷川と南谷川の支流に分かれ、河岸段丘や扇状地が発達している。

3) 地 質

最も広い面積を占める地層・岩石は鈴鹿山地に分布する石灰岩・チャート・緑色岩類及び砂岩泥岩とチャートが混合した岩石である。また、火山活動から形成された「湖東流紋岩」は八尾山周辺に広く分布しており、大岡山や青龍山も湖東流紋岩で形成されている。

大岡山及び青龍山周辺の丘陵には古琵琶湖層が分布しており、平成 5(1993)年に四手の丘陵からアケボノゾウの全身骨格化石が発見され、令和 4(2022)年 3 月には「アケボノゾウ化石多賀標本」が国の天然記念物に指定された。また、芹川中流の河床からはナウマンゾウの臼歯や切歯も発見されている。

4) 歴史的街道

多賀大社参拝のための街道として「多賀道」が発展した。高宮道（多賀本道）は中山道高宮宿から多賀大社への表参道として、鞍掛越えは近江と伊勢を結ぶ峠越えの道として、五僧越えは八重練地区から杉坂峠を越えて岐阜県に至る街道であった。

2.3 産 業

1) 農 業

地勢や気候の関係から水田は多賀・土田・久徳などの平野部集落に比較的多く、畑作は芹谷・大滝・脇ヶ畑の地域となっている。近年は麦・大豆・そばの本作に向けた取組や、施設野菜の生産も取り入れられ、耕作放棄地の再生活動と合わせて、「多賀にんじん」、「桃原ごぼう」など古くからの特産物栽培を行っている。なお、山間部で作られたごぼうはカルスト台地の栄養を吸収しており、高級食材として出荷されていたが、作り手がなく幻の食材となり、現在は有志により復活に向けた活動を行っている。



↑ 多賀にんじん

出典：よびし (note マガジン) <https://note.com/yobishitaga/>



2) 林 業

旧大滝村等の山間地を中心に林業が行われ、公共建築物や住宅における地域材の活用や、地域材を使った体験学習への展開に取り組んでいる。



↑ 町産材

出典「一般社団法人滋賀県造林公社ホームページ
<http://www.morimoribiwako.com/info/04/04-201603.html>」



↑ しいたけ菌打ち

出典「第 72 回全国植樹祭しが 2021 に向けたビワイチ森づくり事業のホームページ
<https://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/torikumi/305095/310248.html>」



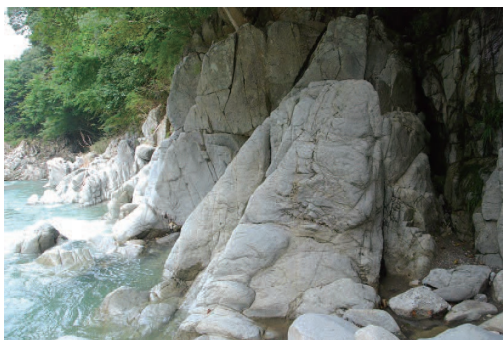
↑ 地域材を活用した建築物

出典「ウッドデザイン賞の受賞作品データベースサイト
<https://www.wooddesign.jp/db/production/1363/>」

3) 鉱業

芹川上流の霊仙山から犬上川上流の佐目・川相地区に広く分布する石灰岩は、芹川の流れによって久徳から中川原に多量に礫が運ばれた。それを白壁の原料として12世紀の頃から使用され、明治期以降は山間部の石灰岩が採掘されセメント産業が発展した。

また、四手・大岡・八重練地区では湖東流紋岩の石切場が操業していた。



↑ 湖東流紋岩

出典「第11回多賀町立博物館研究発表会資料」



↑ 多賀鉱山から搬出された石灰岩の貯蔵所

出典「多賀町文化財保存活用地域計画」

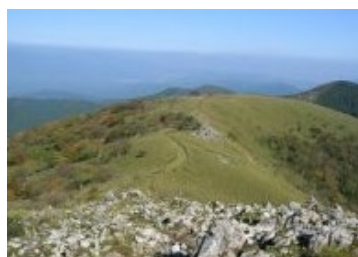
4) 観光

多賀を代表する三社（多賀大社・胡宮神社・大滝神社）をはじめ、霊仙山や高室山等の山々及び登山、古墳、河内の風穴などの観光資源があり、町内外からの観光客が訪れている。



↑ 多賀大社

出典「公益社団法人びわこビジターズビューローホームページ」
<https://www.biwako-visitors.jp/spot/detail/1207/>



↑ 霊仙山

出典「公益社団法人びわこビジターズビューローホームページ」
<https://www.biwako-visitors.jp/spot/detail/1207/>



↑ 河内の風穴

出典「公益社団法人びわこビジターズビューローホームページ」
<https://www.biwako-visitors.jp/spot/detail/1207/>

2.4 歴史遺産

1) 多賀大社

天平 8(736)年に建立、天平 10(738)年に各諸堂が再建され、以降は火災や倒壊、昭和の大改修を経て今に至っている。天照大神の両親である伊邪那岐命と伊邪那美命を祀っており、生命の親神様であることから、古く「延命長寿・縁結び・厄除け」の神様として信仰を集め、鎌倉時代から江戸時代にかけては、武家や民衆にも信仰が広まった。

2) 大岡高塚古墳

明治 20 年頃に山道を付けようとした際に石室に突き当たり、それ以来放置され、村の子供たちの遊び場になったと言われている。墳丘の規模や露出した天井石の大きさは町内に所在する古墳の中でも最大規模であり、町を代表する古墳であるとして昭和 56 年に町指定史跡に指定された。平成 10 年には「あけぼのパーク多賀」が開館し、近接する古墳の活用を要望する声が上がっていたことから、古墳の内容を把握するための発掘作業等の調査が行われた。

一方、史跡としての価値があるものの適切な保全や活用がされていないことから、大岡山・古墳・集落・農業のある里山文化の地としての整備が望まれている。

3) 久徳城

久徳の市杵島姫神社と南側の広場から集落の東側全てを城域とする平城で、久徳氏代々の居城だったが、永禄 3(1560)年に浅井氏によって落城した。久徳城の大手は大手橋のある芹川沿いで、芹川が外堀の役目を果たしていたとされている。面積は東西 200m、南北 200m 程で、広場東側には土塁が、市杵島姫神社本殿の周囲には幅 5m、深さ 1m～2m の空堀が残っている。

2.5 多賀町の「石」の文化

湖東流紋岩を産する石材の産地として、かつては四手・大岡・八重練において石切場が操業していた。

古くは大岡高塚古墳の横穴式石室に使用され、また、彦根市高宮町の中山道にある多賀大社一の鳥居(県指定有形文化財)や近江鉄道多賀大社前駅のプラットホーム、多賀大社造営にも使われ、甲良町の集落にも四手産の湖東流紋岩が使われている。



↑ 大岡高塚古墳
出典「多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集「大岡高塚古墳」」



↑ 中山道の「一の鳥居」
出典「彦根市観光ガイドホームページ」
<https://www.hikoneshi.com/ee5/index.php/sightseeing/articles/tagataisha-ichinotorii>



↑ 多賀駅前の大鳥居
(2022年10月撮影)

2.6 多賀町の「食」の文化

我が国では四季折々の食材に恵まれ、長い年月を経て地域の伝統的な行事や作法と結びついた和食文化が形成されてきた。しかし、ライフスタイルの変化により家族で食卓を囲む時間の減少や、便利で手軽な食事が増えたことなどから、代々受け継いできた食文化が薄れつつある。多賀町においては親戚や近所を招き（よび）おもてなしをする「よびし」が受け継がれてきたが、この〈昔ながら〉が薄れてきている。

一方、官民協働で取組んできた「多賀語ろう会・食部会」を前身として、令和元年に「YOBISHI プロジェクト」が発足し、「たがの たべるを つなぐ」をコンセプトに地域の魅力発信や体験・イベント等を開催しながら、食文化の継承に取り組んでいる。

また、地域に根付く食文化を次代につなぐ目的で、文化庁が始めた「100年フード宣言」では、「よびしの食」が100年フードに認定（2021年3月3日）された。



↑ 児童が収穫した米をおくどさんで炊いて食べる課外授業
出典「YOBISHI の Facebook2022. 11. 7
<https://www.facebook.com/yobishitaga/>」



↑ 多賀食のまつり
出典「多賀町史編纂を考える委員会
ホームページ」



↑ 多賀食のまつり
出典「多賀町史編纂を考える委員会
ホームページ」



↑ よびし通信
出典「メディアプラットフォーム「note」の
YOBISHI ページ
<https://note.com/yobishitaga/m/m0eaea23431da>」



↑ 100年フード認定証
出典「メディアプラットフォーム「note」の
YOBISHI ページ
<https://note.com/yobishitaga>」

3. 大岡高塚古墳周辺の概要

本整備計画の範囲である大岡高塚古墳周辺の概要として、地形・自然、交通、施設について整理する。

3.1 地形・自然等

○芹川・四手川

芹川は霊仙山を源流とする一級河川で、月之木で四手川と合流し、琵琶湖へと流れている。大手橋の下流側右岸脇には川面に降りるための階段が設置されている。

四手川は芹川の支流として、四手を起点に月ノ木で芹川左岸に注ぐ河川。現在でもホタルが発生しており貴重な生態系が形成されている。

○山岳

霊仙山や高室山など標高 1,000m 級の山々が連なっており、本地区からはその美しい山岳景観が望める。

杉坂山の三本杉は多賀大社の御神木となっている。

○大岡山

標高 223m の里山として地域住民の身近な存在である。半円状の美しい形をしており、周辺の田園風景と相まって美しい里山風景を形成している。

○田園風景

手入れされた田園風景が広がり農用地として保全されている。背景の山岳景観と調和し美しい風景を見ることができる。

○久徳城跡

多賀氏の一族である久徳氏代々の居城として文明年間に築城された。市杵島姫神社及び南側一帯が城域とされるが、現在は市杵島姫神社の境内となっている。

3.2 交通

○国道 306 号・307 号

彦根市～いなべ市、彦根市～枚方市を結ぶ道路として、本地区に隣接して走っている。

○県道 224 号多賀高宮線

多賀大社と彦根市高宮を結んでおり、本県道は町道多賀四手線・町道四手多賀北線とながり、四手集落を抜けて国道 306 に合流する。

○町道久徳四手線

あけぼのパーク多賀と久徳をつなぐ道路として、主に生活道路や農業用道路として利用されてきた。びわ湖東部中核工業団地が操業を開始してからは、抜け道としての通過交通が見られる。

○公共交通

湖国バス多賀線と多賀町が運営している予約型乗合タクシーが運行している。

3.3 施設

○大岡高塚古墳

横穴式石室の径 22～25m、高さ 5.5mの円墳であり、犬上郡に分布する他の古墳と比較しても最大級の墳丘と石室規模を有している。将来的な整備を目指し現状保存されている。

○あけぼのパーク多賀（図書館、博物館、文化財センターからなる複合施設）

平成 10(1998)年に開館し、アケボノゾウの前身骨格の化石を展示の中心に据えた博物館を母体に、図書館の機能を組み合わせた施設として整備された。「読む」「体験する」「調べる」という機能を複合させるとともに、敷地に隣接して文化財センターと公園が整備された生涯学習の文化施設である。

敷地内の公園は平成 21(2009)年 5 月にリニューアルされ、展望台、休憩施設、子ども遊具、健康遊具の設置や、多賀町内の自生植物が植栽されている。

○多賀幼稚園

多賀幼稚園の老朽化に伴い、新たに久徳うぐいすこども園として整備が進められている。開園の予定は令和 5 年 6 月である。

○中央公民館（多賀結いの森）

平成 31 年 4 月に開館した施設で、ホール・会議室・多目的室・調理室などで構成されている。建設にあたっては町民との協働による魅力ある運営をめざし「多賀語ろう会」を開催し進められた。併設施設として、社会福祉法人杉の子会の“杉の子第 2 作業所”が整備されている。

○新設都市公園（（仮称）結いの森公園）

公園整備のテーマ・コンセプトを「人・地域・自然を結び、愛される公園」として、“子育て世代が行ってみたいと思える魅力ある公園”“やさしさにあふれ誰もが心の安らぎを感じられる公園”“地域を結ぶ公園”として公園整備が進められている。芝生広場や多目的広場、遊具等が設置されることから、多様な使い方とともに人の新たな交流が期待される。

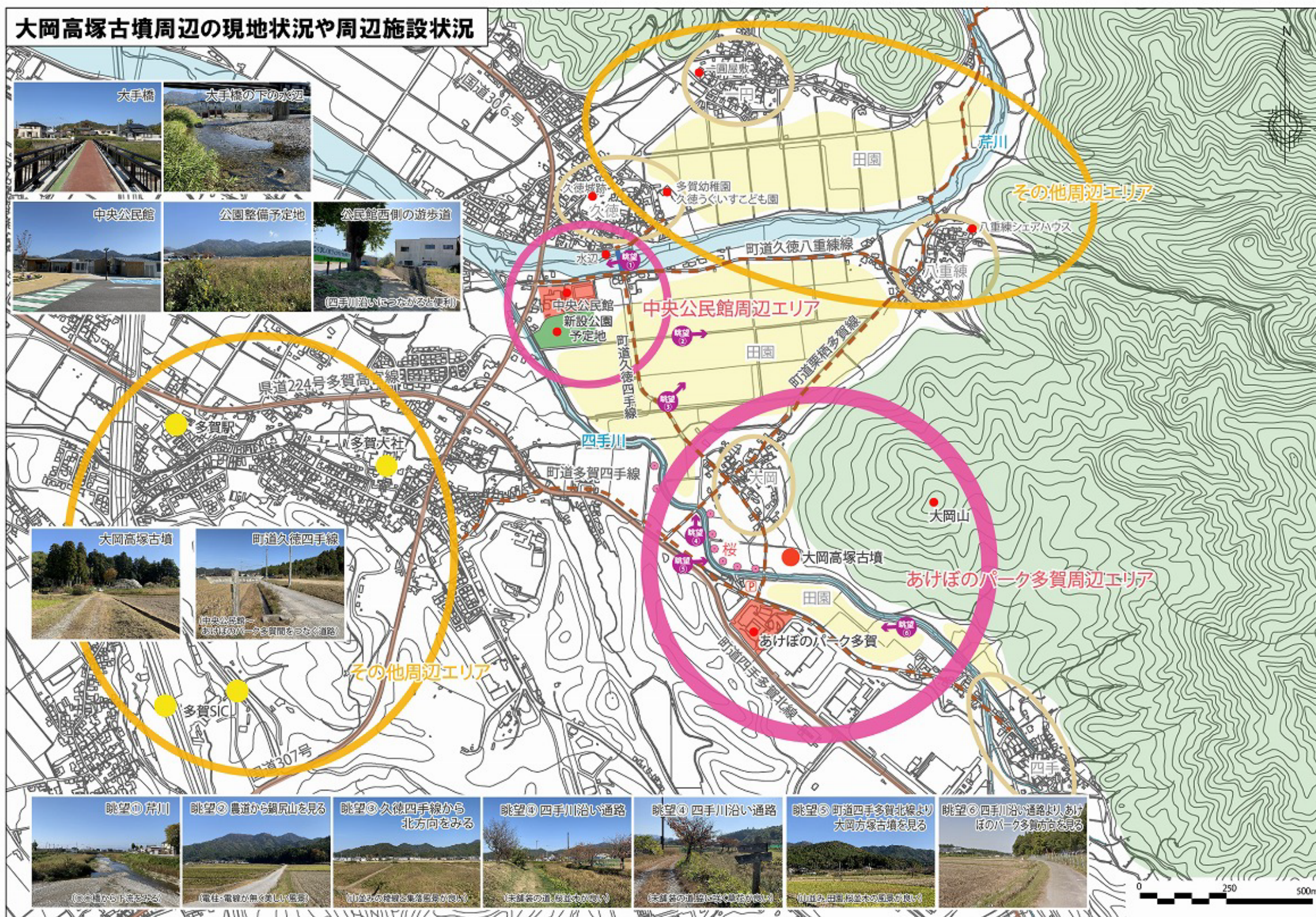
○一圓屋敷（登録有形文化財）

元は江戸時代の庄屋屋敷として、所有者から NPO 法人に譲渡された（平成 20 年）。譲渡後は地域の町おこしの拠点として活用していたが、現在はリノベーションされ宿泊施設として利活用されている。

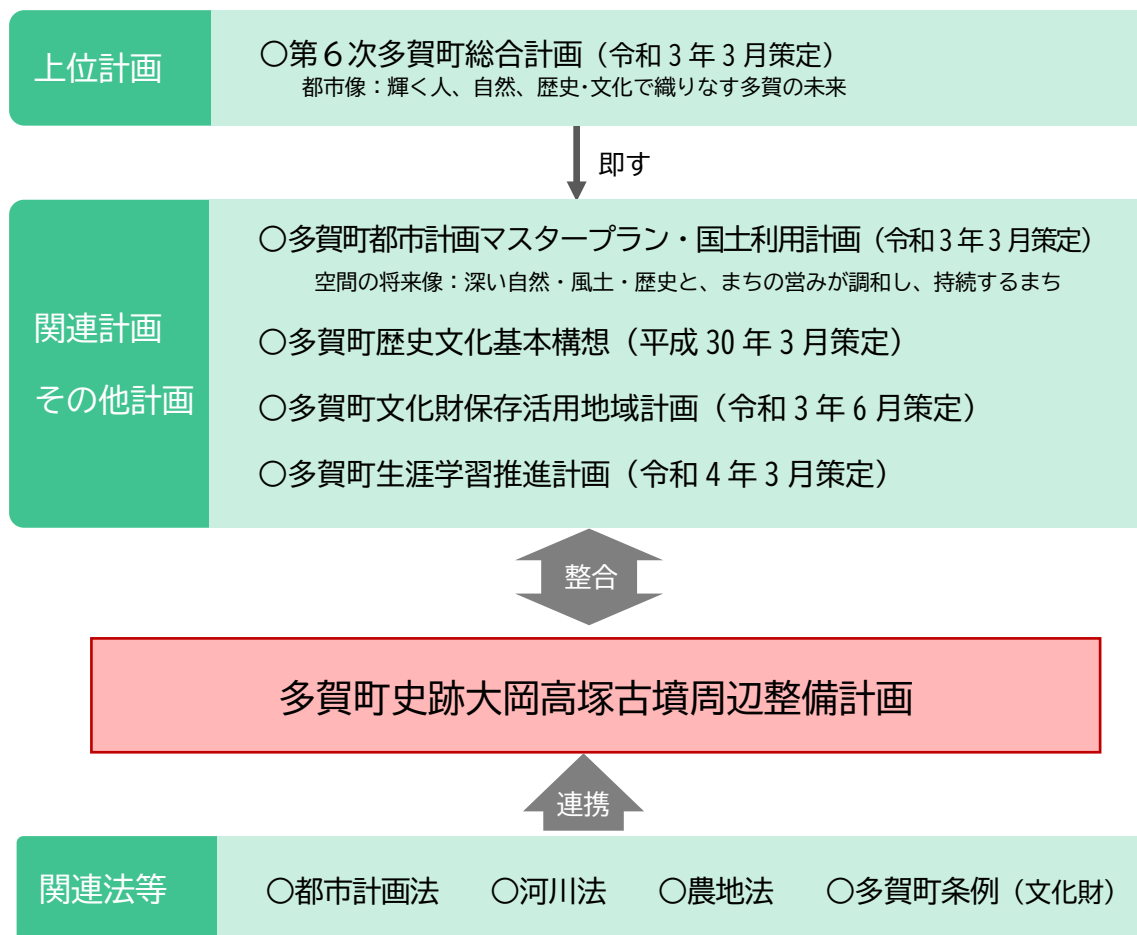
○八重練シェアハウス

古民家をリフォームしたシェアハウスとして、一般社団法人が管理運営を行っている。なお、この団体はシェアハウス以外に、耕作放棄地でのヒツジ放牧除草、製材体験、多賀にんじんの収穫体験等 SDGs の取組みも行っており、中央公民館と連携した活動を実施している。

大岡高塚古墳周辺の現地状況や周辺施設状況



4. 上位関連計画の整理



■多賀町史跡大岡高塚古墳周辺整備計画の位置づけ

4.1 第6次多賀町総合計画（計画期間：R3～R12）

将 来 像

「輝く人、自然、歴史、文化で織りなす多賀の未来」

【分野別に取り組むまちづくりの基本政策】

■基本政策1 『子どもの育ちと子育て』

- ・新たな公園の整備を行い、子どもから高齢者まで、地域内外の多世代間交流が促進される場づくりをめざす。

■基本政策2 『生涯学習・協働』

- ・文化財の魅力を発信するための普及啓発を図る。
- ・町民の多様な学習意欲に応えるべく、幅広い学習の「機会」と「場」の提供に取り組む。
- ・「多賀結いの森」について若者世代を含め幅広い世代に関心をもってもらえるよう取り組む。

■基本政策3 『安全・安心・健康』

- ・人生100年時代を踏まえ、町民の健康づくりを支える環境づくりの推進を図る。
- ・町民の主体的な健康づくりを支援するため、健康づくりへの関心を高めるとともに、町民が参加しやすい保健・予防事業の推進を図る。
- ・個々の目的に応じた運動・スポーツ活動ができる機会を整備する。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、高齢者の生活を支える取組の充実を図る。
- ・健康づくり・介護予防の推進のため、町民一人ひとりが日常生活の中で健康づくりが実践できるよう健康意識の向上や介護予防の啓発を推進する。
- ・高齢者が生涯現役で地域においていきいきと暮らせるように、高齢者の社会参加と居場所を確保し、介護予防活動を推進する。

■基本政策4 『環境・コミュニティ』

- ・自然の大切さや環境保護の重要性など、環境について広く関心をもってもらうきっかけとなるよう環境学習を推進する。
- ・本町の自然に親しみ、地域の自然環境について学ぶ機会をつくる。

■基本政策6 『都市基盤・住環境』

- ・ホタルなど多様な生物が生息する清らかな川の流れを守り、町民に親しまれる親水空間の整備などにより、子どもたちの学びの場となるほか、町民が身近に自然を感じることができる河川づくりを進める。
- ・文化財を保存活用するため、調査・状況把握を行うとともに、将来的には「歴史まちづくり法」に基づく「歴史的風致維持向上計画」の策定をめざす。

4.2 都市計画マスタープラン・国土利用計画（計画期間：R3～R12）

1. 本町の目指すべき空間の将来像

深い自然・風土・歴史と、まちの営みが調和し、持続する まち

2. 空間づくりの基本方針

○骨格を作る自然・田園環境の保全と利活用を図る

- ・奥深くたたえる雄大な森林や清流・河川等の自然、平野部に広がる田園環境は、豊かな生態系を育み、流域の人々の暮らしを支えてきた、本町の貴重な土地利用として、今後も保全を図る。

○集落自治を支える協働のまちづくりに取り組む

- ・集落のコミュニティを基礎に、住民の集落自治による地域の文化・風習やコミュニティの維持が図られており、これを継承し、住民との協働によるまちづくりに取り組む。
- ・担い手の高齢化や転出などによってコミュニティの存立基盤も脆弱になりつつあり、話し合いや行動のための場づくりや人材確保など、多様な連携による支援を行う。

3. 個別施設の方針

【交通の方針】

○公共交通ネットワークの維持と利用促進

- ・鉄道・バスのサービス水準と愛のりタクシーによるネットワーク確保を目指し、拠点間の円滑な接続を図る。

○歩行者・自転車等ネットワークの充実

- ・河川沿いなどを結び景観などを楽しめるネットワークの充実を図る。
- ・ネットワークを行き来する手段としてレンタサイクルも含めた観光用のモビリティ手段を検討する。

【水・みどりの方針】

○森林の保全及び公園・緑地の維持・保全

- ・森林～里地里山～河川～公園・緑地と連なるみどりのネットワーク、生態系の保全を図る。
- ・環境学習や自然とのふれあいの場として高取山ふれあい公園やあけぼのパーク多賀などの活用を図る。
- ・中央公民館「多賀結いの森」を中心とした町民の憩いの場、集いの場の形成を図り、一部拡張を図り、子ども・子育て層を中心とした集いの場としての機能の強化を図る。

○河川の維持・保全

- ・河川周辺の生態系の保全に配慮するとともに、環境学習やレクリエーションの場、漁場等として適切な活用を図る。

4. 歴史・風土を踏まえた景観形成の方針

○骨格となる景観構造の保全・継承

- ・県の景観計画と連動し、どっしりとした存在感のある深い山容の景観、平野部の広がりのある田園の景観、流域川筋の景観など、骨格となる景観の保全・継承を図る。
- ・国道沿いからの眺めの保全や視点場の形成など、広がりある眺望景観の保全を図る。

4.3 多賀町歴史文化基本構想（H30.3 策定）

多賀町の歴史文化・自然環境における保存活用の基本方針

（1）歴史文化・自然環境の保全

- 町内各地区を中心とした歴史文化や山並み・水辺の眺望景観等、歴史的な地域形成の構成要素を使い、それらにふさわしい今日的な景観形成や歴史文化・自然環境の保全

（2）点在する文化財を面的に連続させる

- 関連する文化財や環境を点から面的に連続させ、自然を含めた周辺環境を一体としてとらえなおしたまちづくり

（3）まちづくり活動と連携しあった文化財保存活用

- 地域住民の活動団体と共に歩む文化財保存活用を通じて、地域住民による文化財の掘り起こしと活用をもとにした保全意識の向上

4.4 多賀町文化財保存活用地域計画（R3.6 策定）

■基本的な方向性

以下のような方向性は独立しているものではなく、「活かす」「つなぐ」「つくる」「誇れる」を常につなぎ合わせ連関し合っているものである。

- ・文化財、ひと、地域を活かす
- ・文化財、ひと、地域をつなぐ
- ・文化財、ひと、地域をつくる
- ・文化財、ひと、地域を誇れる

■文化財保存活用区域

- ・多賀・敏満寺周辺地区を今後のまちづくりの要を担うエリアとして位置づけながら、保存・活用の施策を重点的に進めるエリアとして文化財保存活用区域として定める。
- ・文化財センター・博物館・図書館・中央公民館は区域外のため、サテライト的な位置づけとする。

4.5 多賀町生涯学習推進計画（計画期間：R3～R12）

【基本目標】

1 生涯学習の環境整備「多賀に寄り、多賀で語らう」

誰もが集い学び語り合うには、地域の潜在的な学習ニーズを捉えながら、人びとのライフスタイルに応じた学習機会の提供と気軽に集える場の構築

- ・共に学び生きる地域共生社会の実現のため、積極的に学習に参加できる情報提供、ICTなどの環境整備、相談体制の充実。
- ・より効果的な推進をめざし、関連する施設や団体の組織体制を見直すなどのソフト・ハード両面での環境整備。

2 地域資源や地域の人材を活かした生涯学習「多賀を知り、多賀から学ぶ」

地域での学習活動の充実

- ・「地域の人材」や多賀の豊かな自然と歴史・文化など「地域資源」を活用した学習機会を増やし、あらゆる世代が集い住民自ら学びを深め主体的に学ぶ姿勢の育成と情報発信。

3 生涯学習を通じた地域コミュニティの活性化「多賀でつながり、多賀とつながる」

- ・学びによる人と人、団体どうしの交流や連携により新たなつながりを生み出した、多様な人材の育成や地域コミュニティの活性化。
- ・幼稚園・保育園・こども園や学校、家庭、地域との連携。
- ・保護者や地域住民、企業の協力による学校などの様々な教育活動の支援。

4 生涯学習の中核機関としての中央公民館「多賀結いの森」

- ・中央公民館「多賀結いの森」の建設プロセスや「多賀語ろう会」の活動は、住民参加・職員参加の社会教育実践として、今後の施設運営や事業実施におけるプロセスや経験を活用する。

4.6 第2期多賀町健康増進計画・第2期多賀町食育推進計画(計画期間:R1～R5)

基本方針

(1) 健康寿命の延伸

- ・健康寿命の延伸のためには、身体健康だけでなく、こころの健康づくりも不可欠。
- ・心身の健康づくりに向けた施策を展開するにあたっては、健康づくりに関連が深い食育を健康増進計画の一部としてとらえ、「健康増進計画」、「食育推進計画」を一体的に策定した総合的な推進。

(2) 生活習慣の改善を中心とした一次予防と疾病の重症化予防の推進

- ・健康を維持するためには、病気の発症を予防する一次予防が最も重要であるため、生活習慣の改善に向けた取り組みの推進と、早期発見・早期治療に向けた健診体制の充実。

(3) 高齢期の健康づくりの推進

- ・ライフステージごとの課題に対応した取り組みの推進。
- ・介護予防やフレイル対策など高齢者の健康づくりの推進。

(4) 住民の健康づくりを支える環境づくりの推進

- ・健康を実現するためには「自分の健康は自分で守る」という自覚と取組により、まち全体で個人の健康づくりを支援する環境の整備
- ・行政、家庭、地域、職場、保育・教育機関、保健医療機関等との連携体制づくり

5. 意見交換会及び委員会の意見

整備計画の内容について地元との意見交換及び委員会を開催し意見を頂いた。主な意見を以下に整理する。

5.1 多賀町史跡高塚古墳周辺整備計画意見交換会

1) 開催概要

- ・ 日 時：令和5年1月21日（土）13：00～15：00
- ・ 場 所：多賀町立文化財センター研修室
- ・ 参加者：西村 公司（字大岡区長） 西河内 靖泰（元多賀町立図書館館長）

2) 主な意見

- ・ 四手川の管理通路は草刈り作業が大変なので右岸側、もしくは兩岸とも拡張した上でアスファルト舗装として整備してほしい。整備されればサイクリングロードとしても活用が可能である。
- ・ サイクリングロードとして整備が行われても、現状と変わらず除雪の範囲になると思われるので、それも考えていただきたい。
- ・ サイクリングロードとしてあげばのパーク多賀から中央公民館をつなぐのは賛成する。この道は景色がよく通行量が少ないのでウォーキングに活用できるのではないかな。ただ、サル等の野生動物が出没するのは心配である。
- ・ 河川通路はウォーキングルート等の遊歩道として整備されると良い。また、歩行距離が分かる路面サインの設置は良い。
- ・ 人の移動が多くなるとゴミが増えるため、生活に直結する問題も考えていただきたい。
- ・ 四手川は現状で水辺に降りられないが、2箇所程度降りられる場所があると小学校の学習の場として活用できるのではないかな。
- ・ 川沿いに季節の花が咲くのは良い。
- ・ サクラは田んぼの中や用水に花や葉が落ちて困るので、できれば樹木は植えたくない。アジサイ等の低木なら良い。
- ・ スイセン等の四季折々の花を植えるのはどうか。
- ・ 生涯学習ゾーンとして整備されると理想的である。そして古墳は大事だということを住民側がもう少し考える必要がある。地元住民が地域に関われる方法を考え、イベントなどを通じて地域活性化につながるような整備になるとよい。
- ・ この整備計画の内容にもう少しインパクトがあるとよいが、1つ1つの複合作用が出るかもしれない。
- ・ この場所は良い所なので代々につながる整備になればと願う。

5.2 多賀町指定文化財大岡高塚古墳保存整備委員会

1) 開催概要

- ・ 日 時：令和5年2月13日（月）10：00～12：00
- ・ 場 所：多賀町立文化財センター研修室
- ・ 委 員：中川 信子（文化財保護審議委員会） 西村 公司（字大岡区長）
 石川 慎治（滋賀県立大学教授） 金 宇大（滋賀県立大学准教授） 欠席

2) 主な意見

（四手川）

- ・ 河川通路は整備して住民、農業者、来訪者が回遊路として使えると良い。
- ・ 四手川にはホテルが発生するので見に来る人がいる。大雨以外は穏やかな川なので、階段を付けて親しめるとよい。
- ・ 河川で「ふれあう」を考えると全部を舗装するのは良くないと思われる。また、アジサイを植えると在来種が減るので難しいところである。
- ・ 四手川を活かして若い人が歩きたくなるような整備が求められる一方で、整備が進むと外来種が侵入するため、植生を考えると現状維持がふさわしい。
- ・ 草刈りは人手不足により大変なので作業が軽減されるとよい。次世代とのかけはしとなる30代が入ってくれれば助かる。
- ・ 新たな整備により地元負担が増えることは望ましくない。

（ソフト面での取組）

- ・ 整備の方向性やゾーニングの考え方はこの内容でよい。交流エリアと学びエリアは相互の関係性にあるので、ここで誰が何をするのか等の具体性を示さないと構想倒れにならないか心配。
- ・ 方針4に書かれたソフトの取り組みについて、2,3点でいいので具体的に詰めたかどうか。例えば、高取山でジビエのイベントがあるが、そのイベントを公民館や公園で一元化して開催し、年間を通してのイベントは高取山で開催している案内ができる。
- ・ 新しい公園のビオガーデンは人工的なものだが、多賀にゆかりのある樹木が植樹されるなら、公園から本物のある場所に誘導するような仕掛けが考えられる。
- ・ 3月はシガタガゾウ月間なのでイベントを拡大させることも考えられる。
- ・ 個人個人で魅力のある人がいるので、そういう人をつなげていく必要もある。
- ・ 情報発信の仕方が大事である。
- ・ 公園をきっかけに人を結びつけるような具体性として、例えば「ゾウ」なら、ナウマンゾウの化石が芹川で発見されたが、昔からの歴史を辿っていくと川と歴史とゾウがつながる。また、石の歴史は大岡と多賀大社がつながる。
- ・ 公園整備をきっかけにまちおこしをすると価値がでてくるのではないかな。

(古墳整備)

- ・古墳は築山の上に芝生が張ってある公園としてするとよいのではないか。
- ・今の形状だけ見るとゾウの形にも見えてくる錯覚もあるので、全体のストーリーがしっかりあればよい。
- ・少なくとも外側だけでも景色として整備すると風景がつながる。

(その他)

- ・地域での問題は人口減少と高齢化であり、この整備計画をきっかけに関係人口を増やして将来的に移住につながることを期待したい。
- ・整備の方向性はこれでよいと思うので、スピード感をもって進めていただきたい。

6. 本対象地区における課題の整理

現地踏査及び前項での意見等を踏まえ課題を整理する。

課題１．地域資源の活用

- ・大岡高塚古墳は身近な里山の一環として、大岡集落の人の遊び場所等として使われていた。また、昭和 56 年に町指定史跡となり、平成 18 年度には発掘調査が行われ多賀町最大級の古墳の確認されたものの、適切な保存や活用がされていないため、整備及び有効活用により地域資源としての価値を高める必要がある。
- ・四手川にはホタルが生息し里山生態系の一役を担っていることから、この生態系を壊さないような親水空間整備を行い、水辺環境の保全及び共存する必要がある。
- ・中央公民館（多賀結いの森）や（仮称）結いの森公園は、不特定多数の人が集まることができる施設として整備されたことから、まちづくりやコミュニティの拠点として活用する必要がある。
- ・あけぼのパーク多賀も同じように、人が集まる施設であることから、学びや学習等の拠点として活用していく必要がある。

課題２．景観・眺望の保全

- ・手入れされた田園風景から見る霊仙山等の山並みの景色は美しく素晴らしい。この景色は次世代にも受け継ぎたい眺望であることから、遠景の眺望景観を保全するために、県の景観計画の考え方を踏まえながら、建築物や工作物等の色彩や周辺と調和した意匠のバランスを意識していく必要がある。また、電線類の地中化を図るための検討も必要である。
- ・緩やかな河岸段丘～田園～大岡山へと続く美しい里山風景は、長い時間をかけて人と自然が寄り添って作り上げたものである。またこの里山環境は生物多様性の一躍も担っていることから、この自然環境と里山景観を今後も守っていく必要がある。

課題３．人手不足の解消

- ・人口減少、少子高齢化、核家族化を起因とした人手不足は、農地や山林の維持管理、伝統文化の継承、土地・家屋の継承等、個別的な問題が集落や地域全体の問題となっている。解決に向けては複合的な対応策とともに、地域の魅力や価値を高めてU・I・J ターンや関係人口を増やすことで地域の担い手や協力者として育成していく必要がある。

課題４．庁内連携や町民等との協働体制の構築

- ・新たな公園整備を契機に、多賀町全体を盛り上げていくという認識を共有し、他の部署が抱えている課題が我が事にならない縦割りの意識や縄張り意識を変え、行政内部の連携体制を整える必要がある。
 - ・まちづくりは賑わいづくりや活性化だけではなく、子育て、教育、高齢者・障害者福祉、健康長寿、生涯学習、交通、観光など多岐にわたる取組である。まちづくりの効果を相乗効果として創出するためには、産官学民※の連携や協働体制の構築が必要である。
- ※）産業界（民間企業）、官公庁（国・地方自治体）、学校（教育・研究機関）、民間（地域住民・NPO）

7. 整備計画

7.1 ゾーン構成と動線計画

1) ゾーン構成の考え方

本整備計画の範囲内には、中央公民館（多賀結いの森）、（仮称）多賀結いの森公園、図書館、博物館、大岡高塚古墳などの施設、芹川、四手川、山林、田園の自然環境があり、遊び・学び・健康づくり・交流（コミュニケーション）等が実現できる地域資源が集積している。

この地域資源の特徴を活かして 3 つのエリアを設定し、エリア全体は生涯学習ゾーンとして考える。

1. 交流エリア

一円集落や中央公民館の範囲には、《遊ぶ・集う・交流する施設》が集積していることから、この範囲を交流エリアとする。交流エリアは以下のような機能を有している。

- 賑わい機能… 中央公民館（多賀結いの森）と（仮称）結いの森公園は人が集まる核施設となる。イベント開催や各種教室の開催等により多様な世代の多様な人が集まり賑わう機能。
- 健康維持機能… 中央公民館（多賀結いの森）と（仮称）結いの森公園での食の取組や軽スポーツ運動による健康維持機能
- 癒しの機能… 霊仙山を水源に清らかな水が流れる芹川の癒しや遊びの機能。
- 観光機能… 一円集落の宿泊施設、久徳集落の久徳城跡等の観光機能。

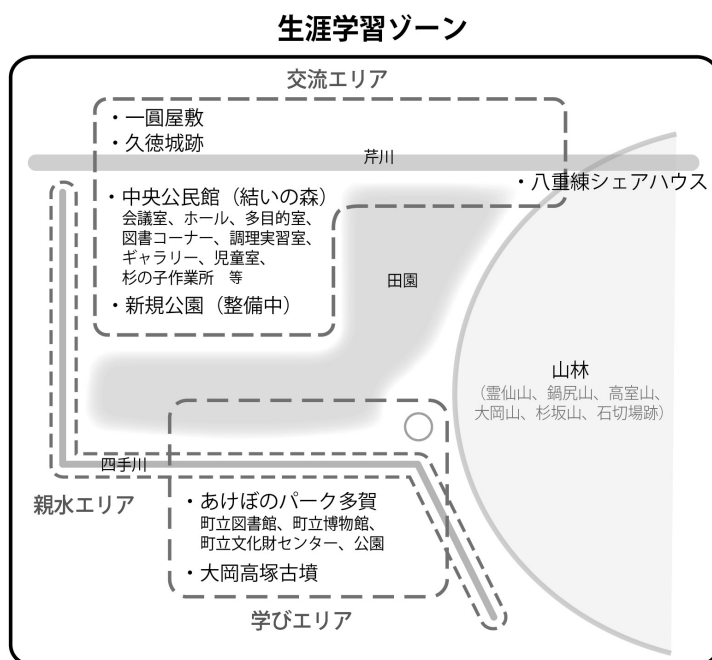
2. 学びエリア

あけぼのパーク多賀周辺は《学ぶ施設》が集積していることから、この範囲を学びエリアとする。学びエリアは以下のような機能を有している。

- 探求機能… 図書館、博物館、文化財センターでの調べ物、展示見学、伝統文化の体験学習等の探求機能
- 体験機能… 大岡高塚古墳、大岡山、農地（田んぼ）での屋外体験機能。

3. 親水エリア

四手川の河川通路は農業用や散歩に利用され、また、夏にはホタルが舞う場所であるため、この範囲を親水エリアとする。四手川の親水エリアは生物多様性機能を有している。



2) 動線計画

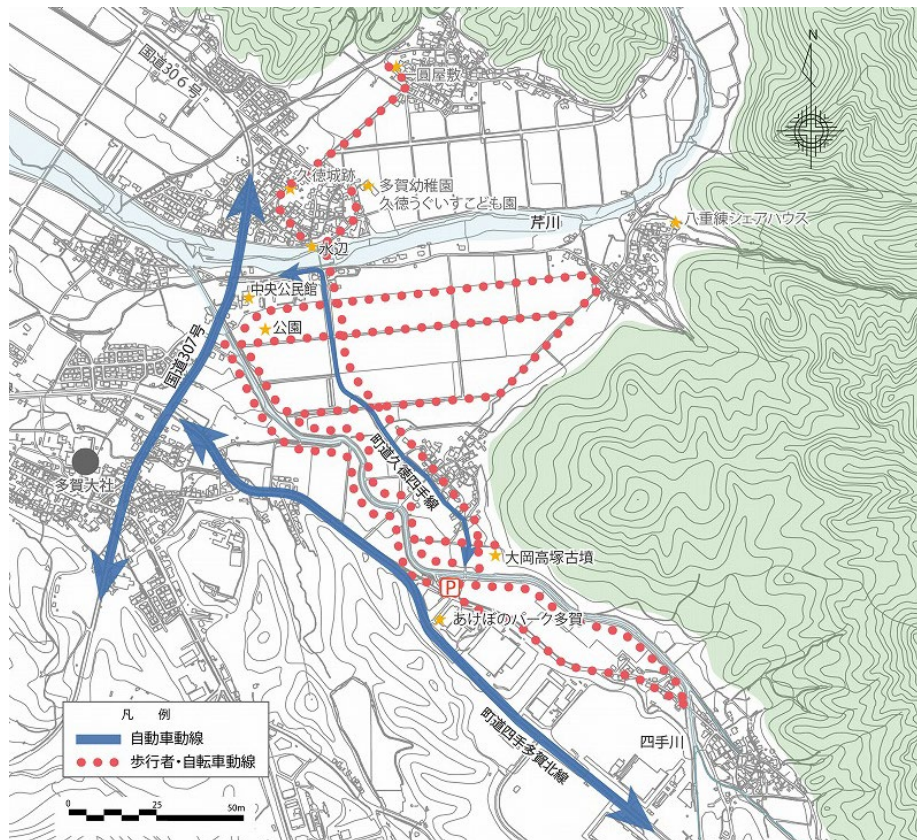
本地区へのアクセスや本地区内を回遊する移動手段は、訪れる人や訪れる目的によって異なるが、自動車動線と歩行者・自転車動線に分けて考え方を整理する。

(自動車動線)

- ・主要なアクセス動線は国道 306 号、国道 307 号、町道四手多賀北線を位置づける。
- ・町道久徳四手線は交流エリアと学びエリアを最短で結ぶ道路であるが、生活道路や農業用道路として地域に密着した道路であるため補助的なアクセス動線とし、通過交通を抑制するような工夫が必要である。

(歩行者・自転車動線)

- ・鉄道やバスを利用したアクセスは国道 306 号、国道 307 号、町道四手多賀北線となる。
- ・ゾーン内は基本的に歩行者及び自転車動線とする。
- ・交流エリアと学びエリアをネットする歩行者の主要動線として、四手川河川通路を位置づけ、歩きやすい歩行者空間としての整備を目指す。
- ・ゾーン内の各施設をネットワークしやすいように、案内板やサインの設置、アクセス情報の提供を図る。



▲動線計画図

7.2 基本的な考え方の整理（基本方針）

整備計画の基本的な考え方（基本方針）を、SWOT分析を用いて整理する。

表-SWOT 分析による基本方針の整理

		現況整理を踏まえた地区の特性	
		『強 み』	『弱 み』
		・施設等の集積 あけぼのパーク多賀、中央公民館、 （仮称）結いの森公園 ・豊かな自然資源 田園風景、大岡山、芹川・四手川の 河川、河岸段丘、ホテルの生息 ・歴史、文化遺産 大岡高塚古墳、石切り場	・少子高齢化 ・人口減少 ・空き家の増加 ・人手不足
外部環境の影響	『機 会』	まちづくりの基本的な方向性 テーマ 生涯学習ゾーンを拠点に、 人と人、人とまちがつながる （考え方） 中央公民館（多賀結いの森）や（仮称）結いの森公園の整備を契機として、生涯学習ゾーンを今後の多賀町全体の様々なまちづくり活動の拠点として捉える。 ここでの活動が複合的な効果を生み出し、人と人、人とまちがつながることで、持続可能なまちを創造する。	
	『脅 威』		
		方向性1. 地域資源や伝統文化の再認識と活用 方向性2. 回遊するための整備や仕掛けづくり 方向性3. 自然環境や自然景観の保全 方向性4. ヒトやモノのネットワーク強化 方向性5. 情報発信の強化・拡大	

7.3 整備方針

5つの基本的な考え方（基本方針）を踏まえ整備方針及び整備内容を設定する。

なお、基本方針の考え方にあるように、まちづくりの複合的な効果の発現に向けて、ハード事業だけでなくソフト事業も併せて整理する。

方針1. 人が集まるための施設整備

【ハード】

- （仮称）結の森公園の着実な整備及び供用開始
- 大岡高塚古墳の段階的整備の推進
- あけぼのパーク第2駐車場の改良

【ソフト】

- 生涯学習ゾーン内の公共施設駐車場の共有化と案内

※回遊性の向上や滞在時間を延ばすために、公民館の駐車場に車を止めて遊歩道を散歩しながら博物館に行く等のイメージ

方針2. ゾーン内を結ぶ回遊ネットワークの強化

【ハード】

- 四手川管理用通路の遊歩道化整備
- サイクリングやウォーキング（散歩）ルートの整備
- 各施設への誘導看板、路面標示、案内板の設置

【ソフト】

- 周辺集落との連携や協力体制の構築

方針3. 歴史・文化・自然等の保全と活用

【ハード】

- 大岡高塚古墳の活用と保全に向けた段階的整備の検討
- 湖東流紋岩採石場（石切場）の活用及び整備
- 山林（大岡山）への散策路整備と展望所整備
- 四手川の水面への階段設置等の親水空間整備
- ホタル生育地としての四手川の多自然型川づくり
- 電線類の地中化

【ソフト】

- 田園風景と山林山岳風景の維持及び保全に向けた意識の共有や啓発
- シェアハウス等、空き家の有効活用に向けた側面的支援
- 四手川の桜並木の保全
- 歴史・文化・自然等の環境を活用した様々な学習会等の開催



▲大岡山と大岡高塚古墳周辺の景観整備のイメージ

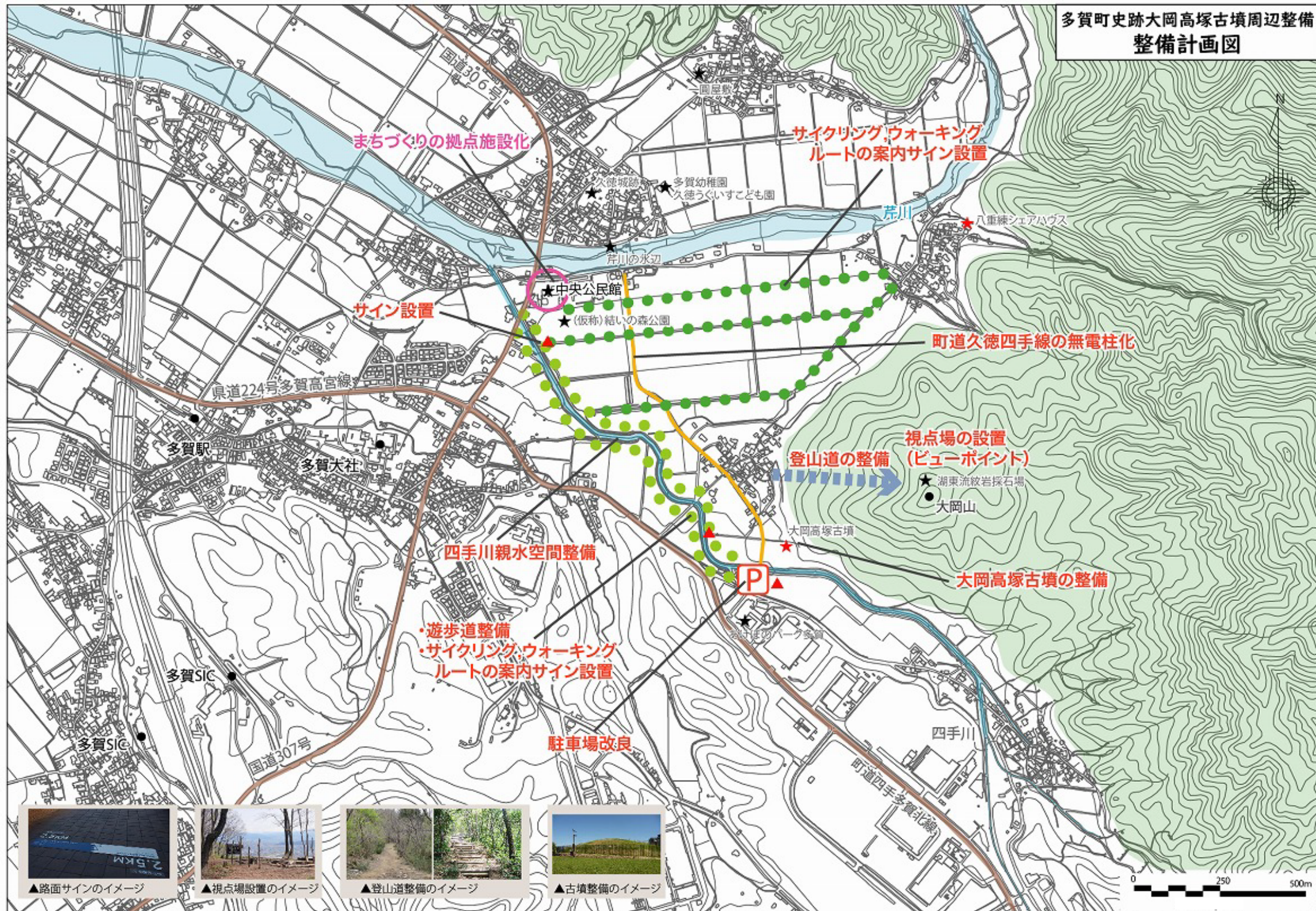
出典：多賀町史跡大岡高塚古墳周辺基本構想（令和3年3月策定）

方針4. 人と人を結ぶふれあいと交流の醸成

【ソフト】

- 庁内連携・協力体制、組織体制の構築
- 産官学民による連携体制の構築
- まちづくりの担い手となる市民グループやサークル等の団体情報の収集
- 庁内連携事業や生涯学習ゾーンを活用した事業や取組の検討
- 中央公民館を中心としたまちづくり活動の展開に向けた検討
- 庁内各担当課、市民グループによるイベント等企画の検討

多賀町史跡大岡高塚古墳周辺整備
整備計画図



8. 概算工事費及び年次計画

8.1 概算工事費

事業名	概算事業費	備考
大岡高塚古墳上面整備	約 61 万円	・張芝 ・陥没部の復旧は含まない ・直径 25m、高さ 5.5m ・面積 280 m² ・1,200 円/m² ○諸経費 80%
大岡高塚古墳公園整備	約 1 億円	・公園整備 ・直径 25m 円墳として鯖江市の事例直径 70m の按分 ・2.4 億円×36%=0.86 億円（諸経費込み）
あけぼのパーク第 2 駐車場改良	約 1,600 万円	○切削オーバーレイ工法 ・面積 1,500 m² ・舗装：5,500 円/m² 小計 8,250,000 円 ○穀処分 ・1,500 m²×0.05×5,500 円/m² 小計 400,000 円 ○区画線 ・500 円/m 1 区画 10m ・60 台分（1,500 m²/23.5 m²） 小計 300,000 円 ○諸経費 80%
四手川管理用通路の遊歩道化整備	約 1 億円	○車道用アスファルト舗装 7,000 円/m ² ・W=2.5m ・L=2.4km（両岸） ・A=6,000 m² 小計 42,000,000 円 ○掘削残土処理 7,200 円/m ³ ・30 cm 掘削 ・V=1,800 m³（6,000 m²×0.3m） 小計 13,000,000 円 ○諸経費 80%
サイクリング・ウォーキングルート案内板設置	約 14,000 万円	○案内板設置 ・設置 3 箇所 ・W1682×H2005×D100 門型 ・1 箇所 210 万円/箇所 小計 6,300,000 円 ○路面サイン ・設置 7 箇所（約 500m に 1 箇所） ・1 箇所 20 万円 小計 1,400,000 円 ○諸経費 80%
山林（大岡山・石切場）への登山道整備と展望所整備	約 860 万円	・展望所は登山道の延長に含める ・登山道 L=約 530m ・9,000 円/m ○諸経費 80%
四手川親水空間整備	約 630 万円	・2 箇所 ・3 型階段工 ・諸経費 80%
町道四手久徳線の電線類地中化	約 13 億円	・町道四手久徳線の大手橋～町道四手多賀北線の約 1Km ・72 万円/m ○諸経費 80%

※消費税抜き

(参考) 古墳公園整備の事例

◇滋賀県東近江市『あかね古墳公園』(平成 9 年 3 月 25 日竣工)

- ・ 事業費：不明
- ・ 平成 2 年に県の史跡に指定され、「悠久の丘あかね古墳公園」として整備した史跡公園。
- ・ 5 世紀を中心とした古墳群で天乞山古墳 (9,742 m²) と久保田山古墳 (5,256 m²) の 2 基を原寸大に復元。
- ・ 公園名は公募に「悠久の丘・蒲生町あかね古墳公園 (当時)」公募で命名。
- ・ あかね古墳公園管理運営：蒲生地区まちづくり協議会 (受託事業)
- ・ イベント等
 - お月見コンサート 主催：蒲生コミュニティーセンター・蒲生地区まちづくり協議会
 - 蒲生野夢あかり 主催：一般社団法人がもう夢工房



↑ 天乞山古墳

出典「オウティクラブ」2019年5月号 Vol. 099 冒頭特集より
<https://chuco.co.jp/modules/special/index.php?cid=35>



↑ 久保田山古墳



出典「東近江市観光 Web

<https://www.higashiomi.net/media/miru/a198>



出典「東近江市ホームページ

<https://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000001156.html>

◇福井県鯖江市『史跡兜山古墳』（令和5年4月）

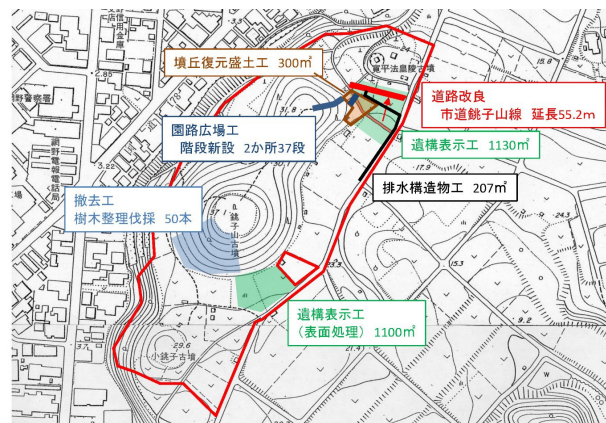
- ・事業費：約 2.4 億円（平成 21 年度当初予算案より）
- ・直径約 70m、高さ約 7m、幅約 17mの周溝、墓域直径約 90m、二段築成の大型円墳。
- ・周囲に大小数 10 基からなる古墳群が形成している。
- ・古墳頂部には八幡神社が鎮座し境内が神域となったため古墳自体の形状が比較的保持している。
- ・昭和 52 年（1977）に国指定史跡に指定。

◇京都府京丹後市『網野銚子山古墳』（令和6年度完成予定）

- ・事業費：約 2.5 億円（毎日新聞 2019/9/5 地方版より）
- ・面積：約 3.7ha（台帳面積＋道路用地実測面積（古墳本体 15,126 m²））、
- ・整備内容：樹木伐採、墳丘の復元、周濠、階段、案内板、解説板、駐車場、ガイダンス施設、大型バスの通行可能な市道整備



↑ 網野銚子山古墳整備 整備位置図



↑ 網野銚子山古墳整備 工事位置図

出典「令和4年度第1回京丹後市史跡整備検討委員会資料」

<https://www.city.kyotango.lg.jp/top/soshiki/mayoroffice/hishokoho/3/4/4/2291.html>

8.2 年次計画

整備方針で整理したハード事業とソフト事業について年次計画を整理する。

事業		短期	中期	長期
ハード事業	大岡高塚古墳上面整備			
	あけぼのパーク第2駐車場改良			
	四手川管理用通路の遊歩道化整備			
	サイクリングやウォーキング（散歩）ルートの整備			
	各施設への誘導看板、路面標示、案内板の設置			
	大岡高塚古墳公園整備			
	山林（大岡山）への散策路整備と展望所整備			
	四手川の水面への階段設置等の親水空間整備			
	四手川の多自然型かわづくり			
	電線類の地中化			
ソフト事業	生涯学習ゾーン内公共駐車場の共有化と案内			
	周辺集落との連携や協力体制の構築			
	田園風景と山林山岳風景の維持保全に向けた意識の共有や啓発			
	シェアハウス等の空き家の有効活用に向けた支援			
	四手川の桜並木の保全			
	歴史・文化・自然等の環境を活用した様々な学習会等の開催			
	庁内連携・協力体制、組織体制の構築			
	産官学民による連携体制の構築			
	まちづくりの担い手となる市民グループやサークル等の団体情報の収集			
	庁内連携事業や生涯学習ゾーンを活用した事業や取組の検討			
	中央公民館を中心としたまちづくり活動の展開に向けた検討			
	庁内各担当課、市民グループによるイベント等企画の検討			

※ソフトな取組は継続が必要

9. 実現方策の検討

実現方策の検討として、「まちづくりの仕掛け」「情報発信」「組織体制の構築」について整理する。

9.1 まちづくりのしかけの実施に向けて

史跡大岡高塚古墳周辺には、歴史・文化・自然といった先人が積み重ねてきた財産があります。その財産はまちの価値として「ここにしかない」貴重なものとして今も残っている。

一方、本地区においても人口減少や少子高齢化により、担い手や後継者不足などの問題を抱えており、若者の地元離れは深刻な問題となっている。国の地方創生においては平成30年度から関係人口創出事業がはじまり、『関係人口』が問題解決の鍵を握るとして、地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。

また、「関係人口」だけでなく観光に来た「交流人口」も重要で、何度かその地域に訪れていると、その土地に愛着がわき応援したくなり、応援したくなる先が「移住」につながり、まちづくりの仲間になってくれることを期待している。

そのため、関係人口になってもらうためには『仕掛け』が重要である。この「仕掛け」は人の行動を変えるための導きや誘いであり、地域ブランディング※¹を行うような仕掛けづくりが必要となってくる。地域をブランディングするためには、そこに住む地域の人や行政との連携は必須事項であり、最終的には自分も自分の周りの人も幸せに暮らせるまちにすることにつながる。

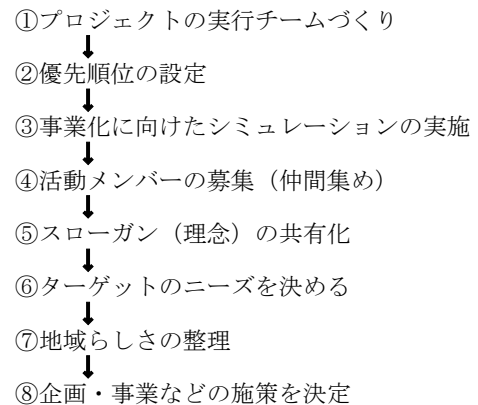
そして仕掛けには『ヒト』『モノ』『コト』が集まることが大切であり、ヒトは人が集まりつながること、モノはモノが生れること、コトは出来事などが始まることとして考えることができる。たとえば、誰かが素晴らしいアイデアや企画を考えていても、個人的な取組では私的な範囲から抜け出ることがないため、「開く（協働）」ことで公共性や公益性が生れる。その公共性や公益性をもって進めるためには、そのアイデアを動かす力（個人・仲間・団体・組織）、アイデアや活動を継続させるための資金力も必要となる。だからこそ、多様な人が関わる多様性のあるまちづくりが重要となる。

多様性のあるまちづくりを実現させるためには、協働の取組み、適切な人材配置、適切な情報発信を行っていく必要がある。

※¹ 地域ブランディングとは、他の地域との違いや特色を明確にし、地域の強みや魅力を高めて発信することで地域の活性化を図る取組です。地域ブランディングを構成する要素には、地場産業、伝統、文化、地域内コミュニケーション、特産品、サービス、移住などがあります。

(参考) 地域ブランディングの一般的な進め方について

ニーズや課題×地域の特性を活かして企画や事業を進めるための流れです。プロジェクトによっては順番が入れ替わることも想定されますが、総体的相対的にはこれらの項目は企画や事業を進めるために必要となる流れとなる。



①プロジェクトの実行チームづくり

発起人となる主要メンバーです。企画や事業を実施するにあたって必要な実行部隊のコアメンバーであり、行政発意または市民発意の両方のケースがある。

まずは行政発意として庁内の横断的な組織体制による実行チームづくりが必要である。

②優先順位の設定

達成したい目的を全部洗い出し、どの目的から達成させるのか優先順位を決め、できれば「どれくらいの期間でこうなりたい」という現実的な目標を設定する。

※ 理念 → 目的 → 方針 → 目標 → 課題 → 対策の一連の流れの整理。

③事業化に向けたシミュレーションの実施

実行チームの中で事業化までのシミュレーションを行い、どのようなメンバーが必要か、誰に手伝ってもらうのか等を洗い出す。

④活動メンバーの募集（仲間集め）

目標を達成させるための活動メンバーを集めます。一部だけの盛り上がりせず、全体で取り組む意識を持ってもらうために、地域をよく知る人、地域外の人、趣味や特技のある人、団体やサークル活動のメンバーなど、幅広い年齢層（小学生から高齢者まで）や様々な職業の人など多様な人が集まることが理想である。

⑤スローガン（理念）の共有化

このプロジェクトは何を目指して進めていくのか、何のためにやっているのかを明確にして、合言葉となる「スローガン」をつくり共有化する。

⑥ターゲットのニーズを探る

行動を起こしてほしい相手がターゲットとなるため、ターゲットのニーズを探る。たくさんの人に行動を起こしてほしいが、ターゲットを絞り一貫性のある企画を立てることで結果的に多数の行動につながる。

⑦地域らしさの整理

多賀の歴史・文化・自然などの地域らしさを、まずはメンバー内で再認識・共有化し、そのらしさを広めて継承していくために、地域ならではの魅力や特徴を集め整理する。

⑧企画・事業などの施策を決定

具体的な施策を検討し、施策を実行する。

9.2 具体的な取組の例示

中央公民館や（仮称）結いの森公園の整備を契機として、歴史が持つ力や場所が持つ力を活かし、行動する人を育て、ヒトを呼び集め、持続的なまちづくりを目指す必要がある。

そのためには、これまでの意識や行動に変化を起こさせる必要がある。以下に具体的な取組の例を示す。

図書館企画 × 博物館企画 × 体験ツアー

「四手川のホタルウォーク」

- 【目 的】ホタルの観察をきっかけに、環境保護の大切さを学ぶとともに、川と歴史のつながり（ナウマンゾウの生息や湖東流紋岩の文化等）を学び実感してもらう。
- 【運 営】主催：行政（生涯学習課、地域整備課）と地域住民による実行委員会
共催：シガタガゾウのサト祭り実行委員会など
- 【内 容】座学と実践体験の組み合わせ
- 【課 題】継続事業の実施により観賞のマナーを知らない人が集まるようになり、ホタル繁殖や生息に影響を及ぼす
- 【効 果】地域価値の向上、ホタル会など団体の組織化、自主的な勉強会開催、他地区とのイベント連携、環境団体や行政との連携体制の構築、清掃・除草活動の担い手の発掘、自然を活かした遊び場の拡大のほか、地域の魅力の再発見や郷土への誇りや自慢となる心理的効果、ホタル米としてのブランド化、ホタル期間限定公民館レストランオープン等の経済効果
- 【PR】・プッシュ型：ホームページ、広報たが、公式 Instagram、博物館・観光協会 YOBISHI 等の Facebook、
・プル型：インターネット（検索）、口コミ、メルマガなど
※プル型は整備の必要あり。

その他、本地区を活用したさまざまな取組み、他地区と連携した取組が考えられる。

- 野や山の草花・植物採取や観察会
 - 季節ごとの霊仙山を撮影する写真教室
 - シリーズ講座企画（古墳のナゾを知る、河岸段丘の成り立ちを知る等）
 - 軽スポーツ体験や健康体操（ヨガ）教室の開催
 - e スポーツ大会
 - 自転車の乗り方教室やサイクリングコースによる自転車の利用促進
 - 公園と公共施設の連携企画による出前あおぞら図書館や出前展示会
 - 保育園の園外学習や小学校の校外学習による公園利用
 - 小中学生向け企画（手芸教室、職業体験、桃原ごぼう栽培体験等）
 - 生涯学習ゾーン全体を使った〇〇フェスタや〇〇イベントの実施
 - 他地区との「食」「歴史」「伝統・文化」の連携イベント
- など

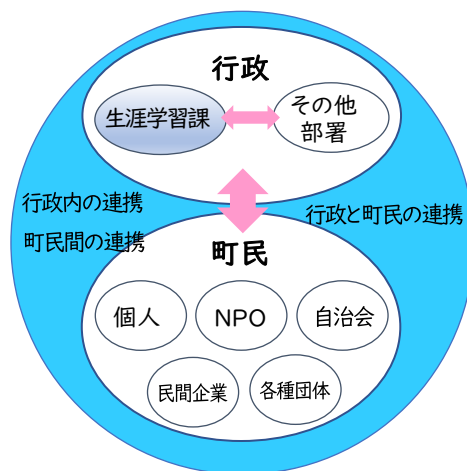
9.3 情報発信

情報発信には2種類あり、情報を配信するプッシュ型と情報を取りに行くプル型である。どちらにもメリットデメリットがあるが、両方を活用しながら適切な時期や時間に情報を発信し、効果的な情報を提供する必要がある。

- ・プッシュ型：ホームページ、SNS（Facebook、Twitter、Instagram、Youtube）、町の広報誌「広報たが」、新聞などのマスメディア、WEBメディア
- ・プル型：インターネット（検索）、SNS（LINE）、ロコミ、メルマガ

9.4 組織体制の構築

中央公民館や（仮称）結いの森公園の整備を契機として、歴史が持つ力、場所が持つ力を活かし、行動する人を育てて、ヒトを呼び集め、持続的なまちづくりを目指すためには、しっかりとした組織体制を構築する必要がある。そのためにはまずは生涯学習課が主体となり、庁内連携と市民連携を図りながら企画・事業を推進する必要がある。組織体制の構築に向けて、新しい何かを始める際に起こる「各個人の考え方を変えることができるのか」、「組織の文化や風土を変えることができるのか」を克服していくことが鍵となる。



組織体制と組織間連携のイメージ

【よくある現状や問題の一般例】

- ・他部署や職員が感じている課題が我が事にならない縦割り行政
- ・担当分野以外の相談を受けた際の柔軟な対応ができない
- ・担当外の内容であればたらい回しになることもある
- ・他部署や市民団体や市民が関わる必要性の発想不足
- ・縦割りの意識や組織間・団体間の縄張り意識
- ・担当者次第の連携体制
- ・既得権益的な考え方や、考え方の押し付け等の「べき論」の健在
- ・最低限同じ方向を向いて迅速に推進する意識醸成不足

